



これまでの医師人生を振り返って ～④ 厳しかった大学院生活と開業を決めた理由～

医療法人社団 有晃会 理事長 船本 全信



大阪府立成人病センターの3年間は、朝から晩まで心臓カテーテル検査室に籠もって、心臓病患者の狭窄した血管を次から次へとバルーンで拡張するといった、それこそ野戦病院的にバタバタした毎日でした。当時は大学病院の初期研修と関連病院の勤務を終えた4.5年目の若手医師には、大学の医局から「実験や研究をしませんか？海外留学の路もありますよ！」とお誘いがかかります。私の母教室である大阪大学第3内科(現 呼吸器免疫アレルギー内科学)において、この時期の進路選択は今後臨床医の道を極めて行くのか、それとも教室の特色である基礎実験や臨床研究・海外留学に舵を切るのかの分岐点でした。それまでの臨床の世界から全く畑違いの基礎実験・研究生活に進む不安もありましたが、最先端の医学・学問の香りを満喫すべく大学病院での研究生活を選びました(大学院生だったので学費はかかりましたが、映画館などでは初々しい(?) オッサン(もちろん私)の写真入り学生証を呈示すれば、学割となりちょっと得した気分でした)。

私の研究テーマは、心臓の肥大・退縮と血管新生でした。簡単に言うと、生体の細胞には恒常的に酸素・栄養が必要ですが、心臓が肥大する際にはその酸素・栄養を充分に確保するため供給源である毛細血管を増加させるべく、肥大する心筋細胞自らが血管増殖因子を分泌するという研究です。正直言って、この4年間の大学院生活は苦しかったです。関連病院での臨床業務は、大勢の外来患者に対応し大勢の入院患者の検査データや経過から指示を出し、容態が悪くなれば何日も病院泊り込み対応といった生活で、「頭を使う」というよりは「体力」勝負でしたが、研究生活はその両方がかなりのレベルで要求されました。4年間はほぼ毎日、朝7時から夜11時まで実験三昧でいつも深夜の帰宅でした。産まれたてのネズミの心臓を取り出して細かく碎き、いくつもの培養皿に取り分けて1層の心筋細胞からなる実験プレートを何十個と作成するのですが、実験で使えるようになるまでは4日間はかかります。そして色々な薬品で刺激を与え、目的となる物質(蛋白質)が分泌されるのを確認します。蛋白質レベルで確認されたら遺伝子レベルで証明します。この証明・確認作業は1回でOKではなく、刺激する薬品の濃度を変えたり、条件を変えたりして何度も繰り返し実施して再現性を証明します。培養心筋細胞で証明されたら、次にその蛋白質の出現には「ある遺伝子」が関与していることの証明です。ウイルス(本当に不思議な能力を持っています)を使って培養細胞にその遺伝子を高発現させて、その蛋白質が増加することを証明していきます。究極的には、その遺伝子を高発現させた遺伝子組換えマウスの作成です。この実験の流れは、培養細胞を使った単なる実験レベルではなく、遺伝子組換えマウスを用いた生体レベルでの検証です。このマウスの作成は、今でこそ企業と契約して作成しますが(もちろんコストは高額!）、 当時は全て自分たちの手作りでした。遺伝子導入した受精卵を作成し、妊娠可能マウスに人工受精を行い繁殖させました。そして産まれて何十匹というマウスの中から目的となる遺伝子を持ったマウスを選び出し、更に交配を繰り返し実験に必要なマウス数を充分確保するためのメンテナンスを日夜行いました。毎日動物舎に行ってマウスの糞尿で汚れた香しい(涙)床敷きを変え、来るべき実験の日までエサ・水やりにと動物園スタッフ張りにせせせとお世話をしました。居心地の良い綺麗なカゴにマウスを移そうとした時には、向こうも警戒して怖いんでしょうね、「何すんねん」って感じで何度も咬まれ、いつも傷だらけでした。この実験の合間に、参考となる英語論文を読み、研究成果を報告する医学会の準備をし、病院で若い研修医の指導をするといった毎日でした。いくら良い研究をしても、同様の成果を先に論文発表されてしまっただけでは意味がなく、それまでの労力は全て水の泡で博士論文に採用されません。まさしくスピードが肝心で、希望する医学雑誌から論文掲載受諾の返事を貰うまでは、ずっと崖っぷちのプレッシャーの毎日でした。でもこの経験で、日常診療での病態の捉え方に「細胞・分子といった基本レベルから病気を考える」という新しい見地が開けた様に思います。博士号を取得した後は海外留学・研究者の道もあったのですが、勤務医時代に診ていた「進行して合併症を伴った」症例の治療だけではなく、「そうならない為の」予防・早期発見医療と、通院が困難な患者の在宅医療に従事したいという思いが強くなり開業医の道を選びました。

人生において色々な分岐点があると思いますが、私の医師人生20年(開業前10年間・開業後10年間)における様々な分岐点は全て非常に意味深いものでした。今でも毎日が新鮮な感動や発見に遭遇しており、楽しくやりがいを感じている次第です。

(完)

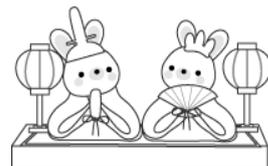
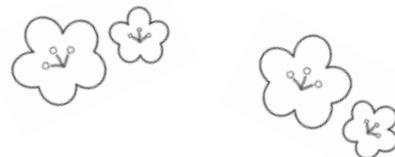
2月の予定

エコー検査	井上 Dr.	4(土)・18(土)
	杉山 Dr.	3(金)・10(金)・17(金)・24(金)
専門外来(血液・消化器)	谷口 Dr.	8(水)・22(水)
専門外来(神経)	藤本 Dr.	4(土)・18(土)
食事相談	宮本管理栄養士	13(月)・27(月)



3月の予定

エコー検査	井上 Dr.	3(土)・24(土)
	杉山 Dr.	2(金)・9(金)・16(金)・23(金)・30(金)
専門外来(血液・消化器)	谷口 Dr.	14(水)・28(水)
専門外来(神経)	藤本 Dr.	3(土)・17(土)・31(土)
食事相談	宮本管理栄養士	5(月)・12(月)



ふなもとクリニックと共に

第2弾 受付編



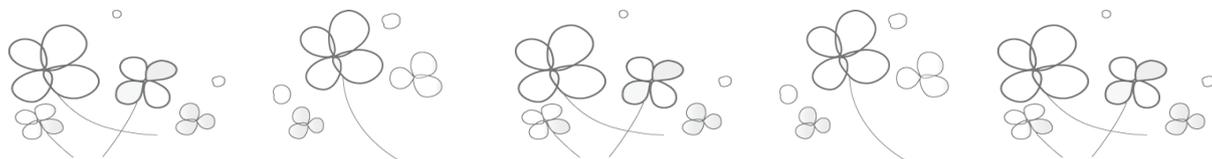
受付の
川本です

私がこのクリニックに入ったのは、まだ内装中の頃でした。その中で研修を受けながら開院に備えました。当日は受付スタッフ全員の4名と院長の奥様の計5名で受付に立ちドキドキしながら初日を迎えた事を今でも覚えています。当時、私の一人娘は幼稚園の年少さんに入園したばかりで、初めてのお弁当作りに奮闘しながらの勤務でしたが幸い娘もすんなり園に馴染み、クリニックスタッフの協力もあって今日に至ります。

(院長をはじめ皆、個性豊かでいい人ばかりです！)

そんな中、私が一番大切にしている事は「自分だったらこんなクリニックへ行きたい、自分だったらこうして欲しい」と、あくまで身勝手な自分目線(主婦目線、母親目線)になるのですが、常に一患者の気持ちで行動する事です。特に受付は医師や看護師のように専門的なアドバイスができませんので、気持ちよく医療を受けて頂いて気持ちよくお帰り頂けたらと思っています。以前、患者さんから「最近、引っ越して来たんだけど、気に入ったからこれからもこのクリニックに通うことに決めたよ。」とおっしゃって頂いたことがありました。その時は凄く嬉しくて、これからも1人でも多くそう感じてくださる患者さんが増えればと思っています。

今後も、日々変化し続けるクリニックに取り残されないよう私自身、自分のやるべき事を頑張り続けたいと思います。



☆保険証提示のお願い☆

保険証が変更(負担割合変更)になった場合は、変更後最初の受診時には、月の変わり目に関係なく必ずご提示下さい。また、月1回の保険証提示にもご協力下さい。宜しくお願い致します。

マルチビタミン サプリメント

毎日の食事では不足しがちなビタミンやミネラルなどの栄養素の補給にいかがですか。マルチビタミン サプリメントの取り扱いを行っております。ご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

